

観光まちづくり研究 ～地域で自転車を 活用することで生まれる 効果について～

(一財) 和歌山社会経済研究所
主任研究員

戸 学

はじめに

自転車は19世紀に登場し、多くの人々に自由や変革をもたらしたと同時に、行動範囲を広げる画期的な乗り物であった。現代では、人々の環境意識の高まりや健康志向を背景として自転車の利用ニーズが高まってきており、レジャーとしてサイクリングを楽しむ人や通勤等に自転車を利用する人が増加し、全国でサイクリングロードの整備やサイクリングコースの設定など、自転車を活用したまちづくりも活発化している。また、新型コロナウイルス感染症の拡大を契機とした「新しい日常」への対応として、人々が密集する空間を回避する移動手段としての自転車の利用も注目されている。

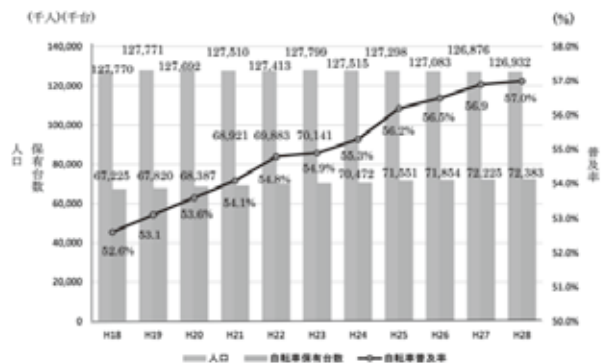
本研究では、自転車活用に関する国や和歌山県の動向を踏まえつつ、和歌山県における自転車活用の取組を検証するとともに、今後の自転車活用推進施策の方向性について観光面などを中心に考察することとした。

1 近年の自転車利用の状況

(1) 自転車普及率と保有台数

国内における自転車保有台数は、2006年（平成18年）は67,225千台であったが、2016年（平成28年）には72,383千台に増加している。ま

全国における自転車普及率の推移



出典：国土交通省「自転車の活用の推進に関する現状の取り組みについて」自転車保有台数は（一財）自転車産業振興協会による推計値、人口は総務省住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査の値

た自転車普及率（自転車保有台数÷人口）も2006年（平成18年）年は52.6%であったが、2016年（平成28年）には57.0%に増加している。これらのことから保有台数、自転車普及率ともに年々増加しており、身近な乗り物として生活に定着していることがわかる。

(2) E-BIKEとは

自転車は日常生活やサイクリングなどそれぞれのシーンに応じ使用する車種は違う場合が多く、ロングライドが可能なロードバイクから折りたたみ式自転車、ママチャリと言われるシティサイクル、電動アシスト自転車など様々なものがある。その中で近年E-BIKEと言われるスポーツ型電動アシスト付自転車が、幅広い年齢層が便利に楽しく乗ることができる乗り物として観光施設や道の駅、ホテルなどでのレンタサイクルとして導入されつつある。

2 和歌山県内における自転車活用の取組

(1) 太平洋岸自転車道

2021年5月31日に指定された「太平洋岸自転車道」は千葉県銚子を起点に和歌山市加太に至る太平洋岸沿いのサイクリングルートで、ナショナルサイクリングルート^(注1)のひとつである。和歌山県内を通る太平洋岸自転車道のルート沿いには、南紀熊野ジオパークの橋杭岩や世界遺産の熊野速玉大社、“日本のエーゲ海”と呼ばれる白崎海岸など美しい景観・景色を感じることができる観光地・景勝地が数多く存在している。

(注1) ナショナルサイクリングルートとは、「日本を代表し、世界に誇りうるサイクリングルート」を国が認定する制度で、2019年の創設以降2021年までに「つくば霞ヶ浦りんりんロード」（茨城県）、「ピワイチ」（滋賀県）、「しまなみ海道サイクリングロード」（広島県、愛媛県）、「トカプチ400」（北海道）、「太平洋岸自転車道」（千葉県～和歌山県）、「富山湾岸サイクリングコース」（富山県）の6ルートが指定されている。

太平洋岸自転車道（和歌山県内ルート）



出典：太平洋岸自転車道（和歌山県内ルート）
https://assets.ctfassets.net/8kohjgazu1qe/6x54tILDImNsgKHDLFRxPF/d6ae8b882e5919af82bc188e1180c1ee/_____ .pdf

(2) WAKAYAMA800

「WAKAYAMA800」は、利便性や安全性を備えあらゆる種類やサイクリストに対応した総延長約800kmのサイクリングロードである。川・山・海のルートを設定しており、サイクリングを楽しみながら観光資源を周遊できるルートとして、訪れる機会の少ない地域にも観光客を誘導し、地元の方々との交流や消費につなげることを目指している。道路上にはブルーラインが敷かれ、サイクリストが自転車のメンテナンスや休憩などを行うことができる「サイクルステーション（2022年2月末時点県内331カ所）（出典：和歌山県HP「サイクルステーション）」の設置が進められている。また、大切な自転車を宿泊部屋まで持ち込めて修理道具、空気入れの貸出も受けられるなど、サイクリストが安心して宿泊できる「サイクリストに優しい宿（2022年2月末時点県内73カ所）（出典：和歌山県HP「サイクリストに優しい宿）」の拡大も進められている。

(3) クマイチ

クマイチは、「WAKAYAMA800」と「太平洋岸自転車道」を活用したサイクリングルートで、和歌山県南部地域を反時計回りで一周するコースとなっている。口熊野（くちくま

の) と呼ばれる上富田を出発し、国道42号線を進み、海岸線沿いをすさみ、串本または古座川を通過し、熊野那智大社、那智山青岸渡寺、熊野速玉大社に至る。新宮からは、熊野の美しい山々の景観を見ることができる。さらに、熊野川沿いの国道168号線を進み、熊野本宮大社、富田川沿いの国道311号線を下って上富田に帰ってくるルートとなっている(※熊野古道は含まれない)。

(4) KMICH (クミッチ) (上富田町)

大人の社会塾「紀州くちくまの熱中小学校」の活動でも知られる一般社団法人「紀州くちくまの未来創造機構」が運営する和歌山県上富田町のサイクルステーションKMICH (クミッチ) は、サイクリング愛好家への情報と交流のプラットフォームとして開設された。E-BIKEやウェアをレンタルすることができ、気軽に本格的なサイクリングが体験できる施設となっており、マウンテンバイク型のE-BIKEは8台、クロスバイク2台、シティサイクル型の電動アシスト付自転車3台(2022年2月末時点)が用意されている。2021年4月1日～12月23日のレンタル自転車の貸し出し実績回数をみるとシティサイクル型の電動アシスト付き自転車とクロスバイクの延べ貸し出し台数の合算が41回、マウンテンバイク型E-BIKEの延べ貸し出し台数176回となっており、マウンテンバイク型E-BIKEの方の人気の

KMICH店内



筆者撮影

高いことがわかる。E-BIKEを借りるのは、専用のサイクルジャージを身に着けるような上級サイクリストではなく、一般層が多く、E-BIKEに乗った感想として「E-BIKEは初めての体験だったが、楽しかった」「自転車に乗ると景色が変わり楽しめた」という感想が多く寄せられているという。また、公募型のツアーではないが、個人申込みに応じてガイド付サイクリングツアーが実施されている。また定期実施ではないが、E-BIKEを使用した「高原に行くサイクリングツアー」や『禅体験「口熊野e-bikeツアー」』なども行われている。

ガイド付きツアーは「道を知らなくても案内してくれるので、走行中の安全度が高くなる」、「地元サイクリングガイドの案内で裏道など普段通らないルートを走行でき、より深く地域を楽しめる」、「地元住民との触れ合い等が、より気軽にできる」など、旅行客の満足度を向上させるだけでなく、事業者側にも「客単価アップ」などのメリットがある。さらに、サイクリングガイドが職として定着すれば新たな雇用創出も期待でき、地域振興にも貢献できる。このことよりKMICHでは今後もサイクリングガイド付きツアーの開発を進めたいとしている。

(5) すさみ町観光協会 (すさみ町)

すさみ町は、自転車を活用した観光振興に力をいれており、2017年から自転車イベント「ライドオンすさみ」を開催している。町内にはレンタサイクルを利用できる施設が6ヶ所あり、レンタル自転車は、ロードバイク17台、シティサイクル型電動アシスト付き自転車15台、マウンテンバイク型E-BIKE 13台、グラベルバイク1台(2022年2月末時点)を配置し、県内のレンタサイクルの台数としては最大級である。また長距離走行が可能なE-BIKEの台数も多いことが特徴である。2021年の4月～2022年1月までのレンタル自転車の貸し出し回数はシティサイクル型の電動アシスト付き自転車86回、マウンテンバイク型E-BIKE台

66回、ロードバイク19回であり、マウンテンバイク型E-BIKEや通常のシティサイクル型の電動アシスト付き自転車の需要が高いことがわかる。

すさみ町観光協会は、2021年7月から“地産地食地走”ブランドツアーとしてE-BIKEも選択可能なガイド付のサイクリングとブランド野菜収穫体験ツアーを催行している。

目的地の農園までサイクリングを楽しみ、ブランド野菜を収穫し、収穫した野菜は、宿泊施設「サンセットすさみ」での夕食や朝食で堪能し、施設では温泉も楽しむことができる。特典としてブランド野菜のお土産もつき、地域資源がふんだんに盛り込まれている。

このような体験ツアーは日帰りよりも、宿泊プランの方が地域での滞在時間が長くなることから町内の消費拡大にもつながるのではないかと考える。

サイクリング×野菜収穫体験ツアー

すさみレタス 80周年特別企画

特産イノブタ

サイクリング × 秋の収穫祭

～1泊2日のすさみ満喫旅～

申込開始 11/13 ※わかまやりフレッシュブランド対象商品 ※12月イメージと異なる場合があります

平日：1泊2食+ブランドツアー込み ¥16,500 / お一人
土曜：1泊2食+ブランドツアー込み ¥20,000 / お一人

1組2～4名様 限定2組 ※全て税込価格

宿 サンセットすさみ 温泉 朝食

特典 太閤川ブランド野菜 お持ち帰り

農 協力：みずみやび農園 太閤川ブランド野菜を収穫しよう！

すさみレタス 80周年特別企画！

ガイド付きで安心、電動アシスト自転車でお楽しみサイクリング
目的地のみずみやび農園で、ブランド野菜の収穫体験
採れたての新鮮な野菜を堪能！「サンセットすさみ」の夕食・朝食で堪能！
名物温泉は「美人の湯」、つるつるスベスベお肌に大感謝！
自宅でも楽しめる太閤川ブランド野菜のお持ち帰り特典付き！！

ご予約はこちらから！

平日 土曜

お申込み・お問い合わせ (一社) すさみ町観光協会 TEL: 0729-34-3200
〒649-2621 和歌山県西牟婁郡すさみ町長巻4581-14

すさみ町提供

(6) JR西日本サイクルトレイン

サイクルトレインとは、自転車をそのまま鉄道車両の中に持ち込むことができるサービスである。自転車を解体せずに電車にそのまま乗れることがメリットであり、乗車駅まで自転車で移動し、降車駅から出てすぐにサイクリングを楽しむことができる。JR西日本和歌山支社では、2021年9月1日から11月30日の期間で、紀伊田辺駅～新宮駅間で、「サイクルトレイン」の実証実験を行った。期間中の利用者数は1,250人で、1日の最大利用者数は60人(11/21)となっており、アンケート結果によると利用者の居住地は、和歌山県内が55.9%と半数を超え、次いで大阪府が22.6%であった。利用目的の94.2%がサイクリングで、利用者の好評を博したことから平日の利用時間を拡大した上で「サイクルトレイン2022」として2022年12月31日までの延長が決定された。

(その後、サイクルトレインの運航は同年4月1日から御坊駅～新宮駅間に拡大された。また、2022年10月1日からは、白浜駅～新宮駅間で「特急くろしおサイクル」サービス開始されている。現在は「きのくに線サイクルトレイン2023」を実施中)

3 E-BIKEによる和歌山県内サイクリングルートの実走

和歌山県内サイクリングルートの実証のため、すさみ町観光案内所(FRONT110)の協力のもと、筆者自身が2022年2月17日にサイクルトレイン乗車とE-BIKEでのサイクリングルートの実走を行った。経路は以下の通りである。

【経路】

すさみ町観光協会フロント110でE-BIKEをレンタル→すさみ駅からサイクルトレインで乗車→白浜駅で下車し出発→和歌山800白浜・すさみ枯木灘コースを進み、すさみ町観光協会フロント110に戻るルート(約41キロ)
※本来の白浜・すさみ枯木灘コース終点は、すさみ町江住駅(総距離55.6キロ)

すさみ町観光協会フロント110



以下筆者撮影

すさみ町観光協会フロント110でマウンテンバイク型のE-BIKEをレンタルし、JRすさみ駅からサイクルトレインに乗車し白浜へ向かった。

サイクルトレインへの初めての乗車では、電車に自転車と一緒に乗る背徳感を感じたものの、ルートは電車利用により体力的に楽になるため、サイクリングに挑戦する心理的なハードルが下がっていくのを感じた。その上、脚力をサポートしてくれるE-BIKEがあったので走行中も楽で安心感があった。ただし、バッテリーが切れた場合は、軽量化されたスポーツサイクルに比べ、システム分の重量が上乗せされた自転車を漕ぐ羽目になるので、モニターに表示される走行可能距離には常に注意する必要がある。経路途中には、案内の看板や路面表示があり、容易に進行方向を把握することができた。白浜からの海岸

サイクルトレイン内の自転車



路面表示①（矢羽根型）



路面表示②（誘導サイン型）



線には、円月島や立ち寄れる足湯、美しい海岸線など見所も多々あり、見たい風景やお店、名所があればすぐに立ち止まれるので、車とは異なる楽しみ方ができ、何度も見てきた景色もいつもとは違って見えた。

また、走行中も景色を楽しむ余裕があり、「橋を渡る」、「坂を下る」、「トンネルを潜る」など道に変化がある方が楽しいと感じた。このようにE-BIKEに乗ること自体に楽しさがあるので、観光の一つのツールとしての将来的な可能性を感じた。今後は、単にE-BIKEをレンタルで乗ってもらうだけではなく、ツアーや宿泊などで地域での滞在時間を増やし、消費拡大につなげるために地域の観光資源と自転車を組み合わせた体験型ツアーを開催するなどの仕組みづくりが有効であると考えられる。また、E-BIKEやサイクルトレインの活用で、自転車旅が「楽にしかも自由にできる」ことをアピールできることを実感した。

おわりに

筆者が和歌山県内のサイクリングルートを実走した結果、道路の起伏が激しい和歌山県の特徴を考慮し、E-BIKE活用をより重視することが必要ではないかと感じた。

和歌山県には、美しい海岸線、豊かな山々、清流があり、絶景を楽しみながらサイクリングできる環境が整っている。コースも初級者から上級者まで幅広い層に対応している。そのようなサイクリング環境が整っている地域でサイクルトレインの通年実施が開始された。

今後、より快適にサイクリングを楽しめる環境が整備され、サイクリストはもちろん、多くの観光客がE-BIKE利用とサイクルトレインの組み合わせで、快適に和歌山の雄大な自然の中でのサイクリングを楽しんでもらえることを期待する。

参考文献（資料）

- ・ヤマハ発動機株式会社HP 「e-Bike ってナニ？」
<https://www.yamaha-motor.co.jp/pas/e-bike/basis/0001.html>
- ・2021/9/8付 読売新聞10面記事 WATCHERS 専門家の経済講座
- ・トラベルボイス 観光産業ニュース 2021年6月1日記事「国交省、自転車ツーリズムの公認ルートを新たに指定」
<https://www.travelvoice.jp/20210601-148907>
- ・国土交通省HP 「ナショナルサイクルルート」
https://www.mlit.go.jp/road/bicycleuse/good-cycle-japan/national_cycle_route/
- ・第2次和歌山県自転車活用推進計画
https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/081300/jitensya/suisinkeikaku_d/fil/suishinkeikaku.pdf
- ・和歌山県HP 「サイクルステーション」
<https://wave.pref.wakayama.lg.jp/cycling/facilities-page.php?catId=1>
- ・和歌山県HP 「サイクリストに優しい宿」
<https://wave.pref.wakayama.lg.jp/cycling/facilities-page.php?catId=2>
- ・県民の友平成29年10月号
<https://www.pref.wakayama.lg.jp/bcms/prefg/000200/kenmin/pdf/k201710/201710-all.pdf>
- ・『紀南一周自転車観光「クマイチ」目指し3町と空港が協定』産経ウエストweb記事2020/12/7
<https://www.sankei.com/article/20201207-V5AWIKW5FVLLBAN6U4A763WO7U/>
- ・『紀南一周自転車ツアー「クマイチ」実現へ協議会設立』産経ウエスト2022/7/20
<https://www.sankei.com/article/20210720-4IHPXZHIUVOJFKNW3ZUMQ4OXBY/>
- ・上富田町HP 「上富田サイクルステーション「KMICH（クミッチ）」オープン」
<http://www.town.kamitonda.lg.jp/soshiki/shinkou/shoukai/kanko/soumu/3506.html>
- ・国土交通省HP 「好事例の共有によるサイクルトレイン等の実施拡大」
<https://www.mlit.go.jp/road/bicycleuse/good-cycle-japan/tourism/detail.html>
- ・西日本旅客鉄道株式会社HP
https://www.westjr.co.jp/press/article/items/211124_01_cycletrain.pdf